

研究推進支援本部 Presents

Sci-Comm. Café

科学コミュニケーションカフェ

第5回：ダイバーシティ&インクルージョン ～大学を誰にも開かれた魅力的な研究環境にするには～

1. あなたの身近にある「ダイバーシティ&インクルージョン」
講師：安曾 潤子 インクルーシブミュージアム代表
2. 対話プログラム
「中央大学を誰にも開かれた魅力的な研究環境にするには」
コメンテーター：安曾 潤子、楊川 国際経営学部准教授
3. ダイバーシティ研究支援制度の紹介・意見交換



4月28日（木） 17:00～ 18:30

講師：インクルーシブミュージアム 代表 安曾 潤子
(コメンテーター) 中央大学国際経営学部 准教授 楊 川

会場：オンライン（Zoomミーティング 事前登録制）

終了後30分程会場を確保しておりますので、情報交換や交流の場としてご活用ください。

対象者：本学所属の研究者（専任教員から大学院生まで）
・研究環境のダイバーシティ・インクルージョンについて
知らない・知りたい・話したい方
・専門や所属の異なる学内研究者とつながりたい方

登録：<https://forms.gle/mbddUj3qsnbs4ArL9> (Googleフォーム)

※当日は「UDトーク」による情報保障（日本語自動文字起こし）を行います。



お問い合わせ： 研究推進支援本部 gokusai-grp@g.chuo-u.ac.jp

中大を誰にも魅力的な研究環境にするには

SDGsが「誰一人取り残さない」をスローガンにしていることに代表されるように、あらゆるコミュニティにおいて、構成する人々の多様性と組織の包摂性が重視されつつあります。また、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)の推進は、倫理的な要請というだけでなく、組織のパフォーマンス向上に必須の要素とも言われています。

そこで、本イベントでは、中央大学を誰にも開かれた魅力的な研究環境とするため、インクルーシブミュージアム代表 安曾潤子さんよりD&Iの基本的な考え方から、これらを考慮したコミュニケーション方法などについてお話を伺います。後半では本学外国人女性研究者である楊川准教授を当事者代表として迎え、本学のD&Iを推進するための方策について参加者の皆様との対話を行います。

ダイバーシティとインクルージョンについて、いまいちピンと来ない・何をすればいいかよくわからないという方から、普段の研究活動において課題意識をもっておられる方、D&Iそのものを研究対象にしておられる方まで、中大研究D&Iの明日について、肩の力を抜いてざっくばらんにお話しませんか？

ダイバーシティ研究支援制度の紹介

本年度より、女性・若手研究者支援のため①ライブイベント前後、②若手研究者、③ダイバーシティを対象とした研究、のための支援制度がスタートします。本制度の紹介ならびに意見交換を行います。

講師

安曾 潤子 (あんそじゅんこ)

インクルーシブ・ミュージアム代表

大学・大学院で古生物学（地質学）を専攻し、国内外の自然科学系博物館で学芸員等として10年以上勤務。この間、障害をお持ちの方や日本語を母語としない方など、どんな状況の方でも学べるワークショップやプロジェクトを実施。現在は独立し、様々な場をインクルーシブにする研修やコンサルを行っている。福祉情報技術コーディネーター1級、International Council of Museumsにおけるインクルージョン研修修了。

楊川 (ようせん)

中央大学国際経営学部 准教授 専門は応用ミクロ経済学。

中国の大学を卒業後、1999年に中央大学大学院経済学研究科に進学し、2005年に博士号（経済学）を取得。その後、経済学部の任期制助手や他大学の専任講師を経て、2019年3月に中央大学国際経営学部に着任。

企画・ファシリテーター：福井智一（研究推進支援本部URA）

登録はこちら <https://forms.gle/mbddUj3qsnbs4ArL9>



研究推進支援本部は、中長期事業計画に基づき学際的研究推進プラットフォームである「Cognitive Diversity」コンソーシアム実現を目指しています。「学彩プログラム」は、その包括的な取組としてURAが中心となって取り組んでいる研究推進活動です。

「科学コミュニケーションカフェ」は、学彩プログラムのひとつ、「共創の場の提供」に位置付けられており、本学研究者に科学コミュニケーションの考え方と技術をつたえることにより、学際的研究基盤形成、研究者個人の能力向上、および大学の社会貢献に寄与することを目的としています。

